

ホクコーユニハーブ®フロアブル

- 種類名：プレチラクロール・ベンゾフェナップ水和剤
- 有効成分：プレチラクロール-----5.0%
ベンゾフェナップ-----20.0%
- PRTR法指定物質：プレチラクロール [第1種] -----5.0%
ベンゾフェナップ [第2種] -----20.0%

- 登録番号：第18717号
- 毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
- 登録初年：1994.04.27
- 性状：類白色水和性粘稠懸濁液体
- 有効年限：3年
- 包装：500ml×20本
2ℓ×6缶(北海道のみ)

【特長】

- 移植前（移植7日前まで）および移植直後～ノビエ1葉期（但し、移植後30日）まで使用可能な初期除草剤。
- SU抵抗性雑草、ウリカワ・オモダカなどの多年生雑草にも有効。

【適用内容】(2019年12月18日現在)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	プレチラクロールを含む農薬の総使用回数	ベンゾフェナップを含む農薬の総使用回数
移植水稲	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ オモダカ	植代時 (移植7日前まで)	500ml /10a	1回	植代時に原液のまま 散布し混和する	2回以内	2回以内
		植代後～ 移植7日前まで			原液湛水散布		
		移植時			田植同時散布機で施用		
		移植直後～ ノビエ1葉期 但し、移植後 30日まで			原液湛水散布、 水口施用 又は 無人航空機による滴下		

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 使用前によく振ってから使用すること。
- オモダカの防除は、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - ◆ 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
 - ◆ 軟弱な苗を移植した水田
 - ◆ 極端な浅植の水田及び植付不良で根が田面に露出している状態
- 水田の代かき、均平はていねいに行い浮遊物のワラくずなどのごみはできるだけ取り除くこと。
- 強風時の散布はさけること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 散布に当たっては水の出入りを止めて湛水のまま均一に散布し、散布後少なくとも4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm程度)を保って田面の露出をさけること。また、散布後7日間は落水、かけ流しをしないこと。自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水尻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。
- 水口施用の場合は、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させること。処理後田面水が通常の水深状態(水深3～5cm)に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意すること。
- 本剤を無人航空機で滴下する場合は次の注意を守ること。
 - ◆ 滴下は使用機種の使用基準に従って実施すること。
 - ◆ 滴下に対しては散布装置のノズルを使用しないこと。
 - ◆ 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行うこと。
 - ◆ 隣接する圃場に水稲以外の作物が栽培されている場合は、無人航空機による本剤の滴下は行わないこと。
 - ◆ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
 - ◆ 薬剤滴下に使用した装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
 - ◆ 本剤の滴下に使用した無人航空機の散布装置は、水稲以外の作物への薬剤散布には使用しないこと。
- 梅雨期等、散布後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲などのないように注意すること。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 散布の際は保護眼鏡、農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
無人航空機による滴下で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
散布後は水管理に注意すること。
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。